

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000331
法人名	有限会社たちばな
事業所名	グループホームたちばな
所在地	伊予市灘町136番地2
自己評価作成日	平成24年 3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>協力医院と連携してご利用様の健康管理をおこなっており、またリハビリなども行ないADLの向上に努めている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●近くのスーパーに、職員と一緒におやつを買いに行ったり、手芸をされる方には、材料を買いに職員が同行されている。建物内のデイサービスのカラオケに参加されたり、3月には、双海に菜の花を見にドライブし、道の駅で買い物等、「プチ外出」して楽しまれた。事業所では、利用者が「外に出て、外の空気を吸う」機会を増やしたいと考えておられ、「中庭でおやつを食べたり、利用者の行きたいところに出かけられるよう取り組んでいきたい」と話しておられた。</p> <p>●事業所の一般家庭のような浴槽での入浴が難しいような利用者は、併設デイサービスの大きな浴槽を使用して、職員2名の介助で浴槽で温まっていた。デイサービスのお湯は軟水を使用されており「肌にやさしい」と、気に入っておられる方もいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームたちばな

(ユニット名) グループホームB棟

記入者(管理者)

氏名 山下 三生男

評価完了日

平成24年 3月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフ掲示板にし、いつでも見ることが出来るようにしている。	
			(外部評価) 開設時より、「心の安らぎがあり 穏やかで生きがいを持ち充実した生活をおくれる」と、理念を掲げておられ、計画作成担当者は、理念を踏まえて介護計画を作成することに努めておられる。管理者は、新人職員に対して「自分の家族として利用者と接するように」と、話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・外出や行事など、外部の方やご家族をできるかぎり招くよう取り組んでいる。 ・定期的に新聞を発行している。 ・ご利用者様が生育環境のなかで心身の安定が図れるよう地域への外出を行なっている。	
			(外部評価) 事業所の近くにある地元商店街のコミュニティスペース「いっぷく亭」に、歩いて行ける利用者は、月に1~2度散歩時に立ち寄っておられ、手芸等の展示作品を見たり、お茶をいただいたりされている。11月に行なわれた「郡中いっぷく亭まつり」時は、法人でブースを設けられ「簡易認知能力測定」等を地域の方に実施したり、母体医療機関の医師が健康相談を行われた。中学生の職場体験を受け入れた際には、地元中学生2~3名が来てくれて、利用者とお話したり、レクリエーションに参加してケアの体験をされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・定期的に消防署との連絡をとり、非常時の対応や応急処置の方法を学ぶようにしている。 ・概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での防災対策について消防や行政の方も出席いただき、理解を深めた。 ・気候の良い時期に、ご家族・地域のボランティア・職員とともに芸能や食事を楽しむ機会をもつことが出来た。 ・「認知症」について、近隣の医師の協力を得て地域の方々に向けて情報発信し、理解を広げることができた。 <p>(外部評価)</p> <p>前回の外部評価を受け、2ヶ月に1度、会議を開催できるよう努力をして来られたが、職員の人手のこともあって、11月の会議以後は滞っている。昨年4月の会議では、「地域防災について」話し合わせ、地域の消防団の方に参加していただき、過去の自然災害について等の話をしていただいた。</p>	<p>計画作成担当者は、「新年度のタイミングを利用して会議を開催していきたい」、又、「会議を利用して、地域とつながってほしい」と話しておられた。会議を定期的開催し、地域のいろいろな方と関係作りに取組み、地域のケアサポーターを増やしていかれてほしい。さらに、事業所の取組み内容・課題について話し合い、外部からの意見等をきっかけにして、事業所のケアの質向上につなげていかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空室、待機状況を月1回定期的に情報提供している。 ・ケアプランや基準など疑問点については市へ確認を行なっている。 <p>(外部評価)</p> <p>昨年4月の運営推進会議時には、災害時の安否確認等について、市の取組みを説明していただいた。事業所についての情報提供は、定期的に市へ郵送されている。たとえば、市内の地域密着型サービス事業所同士が、情報交換できるような場作りを市に働きかけて、協力してもらってはどうか。市と協働しながら、地域の認知症ケアの向上やグループホームを良くしていくような取組みをすすめていかれてほしい。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病状の悪化防止や危険防止のための抑制はあるが、できるかぎりご利用者の気持ちを大切に、必要最低限の実施としている。 <p>(外部評価)</p> <p>ユニットの入り口を出入りすると、チャイムが鳴るようになっている。車椅子からご自分で立ち上がり、転倒する心配がある利用者にはご家族同意のもと、固定ベルトを着けている。現在は、ご本人の状態は落ち着かれているようだ。身体拘束について、今後も職員で勉強を重ね、又、利用者の現状を把握して、拘束なくともすむようなケアについて考え、実践していかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・研修参加の機会を持っていない。 ・ご利用者様の身体チェックをおこない受傷原因・経緯を検証して注意喚起している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・ケアマネジャーが権利擁護、成年後見に関する研修を受講している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・文書と口頭説明により充分ご理解いただいたうえで署名捺印していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員からご家族へ連絡し、ご要望に添えるよう努めている。面会等の際はご利用者様の日頃の様子を伝えるようにしている。 (外部評価) 近くに住むご家族は、頻繁に来訪される方もあり、毎日のように来られる方もある。調査訪問時も、ご家族の来訪があり、利用者笑顔で会話している様子がみられた。クリスマス会時には、ご家族にも案内をして、4名ほどの方の参加があり、利用者と一緒に食事を楽しまれたり、9月の「収穫祭」には、6名ほどのご家族が来られて、バザー等を楽しまれた。事業所では、今後、事業所行事や取り組みについて感想や意見をお聞きして、より良い活動につなげたいと考えておられた。	クリスマス会や収穫祭等、ご家族が集うような機会もあり、そのような機会を活かして、ご家族同士が交流するような雰囲気を作ってみてはどうだろうか。ご家族が気付いたことや、気になること等を言い出せるような機会や雰囲気を作り、利用する側であるご家族からの声を引き出し、ケアサービスの質向上への取り組みのきっかけにされてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回定期的にスタッフ会議を開催している。必要に応じ管理者会議へ参加して意見交換をおこなっている。	
			(外部評価)	
			半年に1回、外部の講師を招いて勉強会を行っておられ、職員はレポートを作成して提出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			各人の能力に応じた勤務体制をとっている。日常の気づきや業務に関して他の職員に周知したり、評価・称賛する制度を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員の能力に応じ業務内容や研修・会議等の参加をさせている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			毎週土曜日に同施設内他事業所スタッフと交流の機会を作っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			好き嫌いや生活リズム、周囲の環境等把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 経済面、生活面、健康管理・医療についての連携や流れ、悪化時のホーム側の対応を説明し、安心して利用していただけよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご利用者様にとっての安全と安心に対するサービスの内容や家族にとっての不安や負担を聞くようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生活する家族として考え対応するよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会等の際、ご家族の希望を聞くことや、ご本人様の状態を伝えご家族にとっても安心していただけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来ていただいたり、こちらから会いに行けるように支援している。また、馴染みの場所への外出やお墓参りの支援もおこなっている。 (外部評価) 施設内に公衆電話があり、利用者からの希望に応じて職員がご家族等とお話することを支援されている。県外に住むご家族と手紙のやりとりをされる方もある。利用者が以前住んでいたところの近所の方が訪ねて来てくださることもあり、職員は、居間に案内してゆっくりしてもらえるよう声をかけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションが円滑に進むよう、必要に応じて職員が間に入っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設の利点を活かし、ご本人様のためにより良いサービスが活用できないか、ご家族のお気持ちも含め利用していただけるように努めていく。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から声かけを行い、本人の意向を把握できるよう努めている。困難な方は本人本意で物事を考えるようにしている。 (外部評価) 事業所では、日常生活動作を主としたアセスメントに取り組んでおられ、その結果からご本人の要望を探っておられる。利用者の中には、生まれ育った場所を懐かしがられる方もあり、外出の機会を利用して支援していくことを考えておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人ファイルに生活歴や生活環境など記入し職員が把握出来る様になっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録にて1人1人の生活リズム、状態が把握出来る様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会等で御家族のケアに対する意見等を聞く様に努めている。1月に1回医療とのカンファレンスを設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>計画作成担当者が、介護計画の案を作成して、職員とカンファレンスを行い、計画を作成されている。医療の必要性の高い方については、看護師や主治医がカンファレンスに参加することもある。ご家族には、都合のつく方はカンファレンスに参加していただいたり、来訪時等に計画について意見をうかがっておられるが、「お任せします」と言われる方が多いようだ。モニタリングは、計画作成担当者と担当職員で毎月行い、計画の見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録に記入し、朝・夕の申し送り、昼にミーティングを行い情報を共有し、実践している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>心身の能力や嗜好、社会性に応じて通所など他事業の活用もおこなっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>年間行事の際に周辺施設へ協力依頼をしている、又散歩や買物をする等御本人の気持ちにより添えるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間体制で医療従事者と連絡がとれるようになっている。	
			(外部評価) 利用者は、全員系列医療機関がかかりつけ医となっている。2週間に1度の利用者の定期受診時には、職員が同行して支援されている。歯科については、訪問歯科を利用できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護師に健康状態や適切な処置を受けれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 緊急時はまず職員により医療連携、救急搬送時の同行をおこない早急な対応を行なっている。連絡を密にして情報交換や相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で家族と話し、医師との話し合いも行っている。又、医師・看護師のアドバイスの元、介護を行っている。	
			(外部評価) 事業所では、「看取り介護実施の定義」を作成されており、利用者が「対象になってから」ご家族と今後のことについて話をするようになっている。口頭で、「最期までお願いします」というご家族もあるようだ。現在、ご家族に「看取り介護実施の定義」については話しておられないようだが、今後、終末期のあり方について、ご家族の思いをゆっくりお聞きするような機会も作ってみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 他部署・主治医と連携して急変時や事故の時など、応急処置の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的(年2回)に避難訓練を行っている。 (外部評価) 昨年の秋に実施した避難訓練は、消防署の協力を得て行われ、消火器を設置する場所について、アドバイスをいただいた。歩行できる利用者は、職員の誘導のもと、事業所の駐車場へ避難をされた。	 事業所は、建物の2階に位置しており、又、車椅子を使用する利用者も多いことから、今後さらに、夜間等、いろいろな場面を想定した訓練を重ねていかれることが望まれる。又、実際に、連絡網を回してみたり、通報装置の使い方等も訓練されてほしい。課題を明確にして解決に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人の性格を把握し、言葉使いに気をつけ声かけを行っている。居室訪室の際も必ず本人様の許可を得てから対応している。 (外部評価) 職員の利用者に対する言葉かけや対応について、やわらかい口調で対応されている職員もあるが、配慮が必要と感じるような場面も見られた。又、昼食中等、職員同士の業務上のやり取りの声の大きさ等も気になった。共用のトイレ内の環境整備についても、利用者の立場から配慮や工夫されてはどうか。	 職員の利用者への言葉かけや対応について、職員一人ひとりが利用者の立場に立ち、振り返る機会作りが望まれる。すべての職員が認知症の人を理解できるよう勉強会を行ったり、外部研修受講等もすすめられ、職員個々がスキルアップできるよう取り組まれてほしい。運営推進会議のメンバーやご家族にも気付いたこと等を出していただきながら、ケアサービスの質の向上に取り組んでいかれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人にわかるように説明し、自己決定したり納得してもらえるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本共同生活として一緒に食事やレクなど他の利用者と協力して頂く様努めるが、本人の生活リズム意思を尊重するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪のカットなど希望があれば美容院へ付き添って行っている。訪問美容もしていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 1人1人の好みを把握し、食事を提供している。下膳や食器拭きなど職員と一緒に手伝って下さっている。毎食前口腔体操を実施している。	
			(外部評価) 朝食や日曜日の食事は、グループホームの台所で作っておられるが、平日・土曜日の昼・夕食は、建物内の法人の厨房で調理担当の職員と、グループホーム職員1名が食事を作っておられる。利用者は、ユニットの台所で職員が洗ったお盆や食器を拭いてくださることもある。現在、利用者の食べたいもの等を、献立に反映することはあまりないようである。利用者が主体の生活を支援することがグループホームの特長でもあり、利用者が食べたいものや好み等を十分に採り入れた食事支援が期待される。事業所の食事支援については、利用者はもちろん、時にはご家族や運営推進会議のメンバーの感想や意見等もお聞きして、支援に工夫を重ねていかれてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分などチェック表に記入してひと目でわかるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は行ってもらい、出来ない人は職員介助にて口腔ケアを行っている。口腔体操も実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表にて1人1人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 夜間はおむつを使用される方も、日中は、リハビリパンツを使用して、トイレで排泄できるよう支援されている。夜間、居室でポータブルトイレを使用される方で、朝は、ご自分で始末をされるような方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便がしばらく見られない時は、かかりつけ医師の指示により下剤を服用してもらっている。朝のリハビリ体操等のレクリエーションを通して運動を働きかけている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人が入浴したいかどうか確認をし入浴を行っている。保清・感染防止のため最低でも週2回の入浴(清拭)は実施している。	
			(外部評価) 現在は、週に3回入浴できるように支援されている。事業所の一般家庭のような浴槽での入浴が難しいような利用者は、併設デイサービスの大きな浴槽を使用して、職員2名の介助で浴槽で温まっていたい。デイサービスのお湯は軟水を使用されており「肌にやさしい」と、気に入っておられる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中本人の希望があればソファーや居室で休息をとってもらっており、夜間も本人の就寝時間に合わせるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者ごとの薬情をみて理解に努めている。服薬は間違えないよう職員2人で確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭きや洗濯物などを手伝ってもらったり、将棋やカラオケなどレクリエーションも行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方が面会にこられた時に一緒に買物に行かれたりしている。	
			(外部評価) 近くのスーパーに、職員と一緒におやつを買いに行ったり、手芸をされる方には、材料を買いに職員が同行されている。建物内のデイサービスのカラオケに参加されたり、3月には、双海に菜の花を見にドライブし、道の駅で買い物等、「プチ外出」して楽しまれた。事業所では、利用者が「外に出て、外の空気を吸う」機会を増やしたいと考えておられ、「中庭でおやつを食べたり、利用者の行きたいところに出かけられるよう取り組んでいきたい」と話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理している人もいるが、出来ない人は1人1人金庫に入れて管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で出来る人はしてもらって、出来ない人は職員が行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 清掃をし、いつも綺麗な状態で居心地よく過ごしてもらえるようにしている。 季節感を採り入れるという工夫がされていない。 温度計で温度管理を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者のぬり絵の作品が貼られていた。造花の桜の花が飾られてあり、利用者が「きれいね」と眺めておられた。タイルカーペットの床の染みや剥がれかけた部分も見受けられた。壁には、職員の勤務表や注意事項等の職員用の掲示物が多く見られる。</p>	<p>この機会に、居間等の共用空間について、「利用者個々にとって居心地のよい環境になっているか」ということを点検する機会にされてはどうか。利用者が生活感や季節感を感じられるような空間作りについて、利用者と相談されたり職員でアイデアを出し合い、工夫されてはどうか。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の場所を設けて利用者間同士でコミュニケーションをとってもらえるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人・家族と相談し使い慣れた物など取り入れて好みの環境になっている。</p> <p>(外部評価) 使い慣れたタンスやテレビを持ち込んでおられる。床に畳を敷いて、布団で休まれる方もいる。調査訪問時はお天気がよく、居室の窓を開け、布団を干している居室もみられた。事業所で設置しているタンスの上には、おむつ等の排泄用品を置いておられるが、収納について配慮できることはないか、職員で話し合わせてみてほしい。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者が少しでも自立できるよう、担当職員と相談して工夫している。</p>	